

2024 年 6 月 30 日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部
教員研修 実施報告書（Web 公開用）

1. 所属	短期大学部 英語コミュニケーション学科
2. 職名・氏名	准教授 久保田佳枝
3. 研修期間	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 26 日
4. 研修先機関（国名）	San Francisco State University Culture and Emotion Research Laboratory (U.S.A.)
5. 研修課題名	日本的職場環境におけるサイコロジカル・キャピタル（PsyCap）： 日本語版 PCQ の開発を中心に
6. 研修経過 （月単位で記載してください） 例）4 月上旬～5 月下旬：	4 月～5 月： 1 年間の研究計画に関し、教授へ相談しつつ指導を受ける。また毎週実施されるラボミーティングへの参加および心理学部の授業の聴講を通じ、ラボメンバーが用いる方法論、指導を受ける際に必要な自身の研究の下準備の仕方について把握する。 6 月～8 月： 渡米前に収集したデータを分析する。 9 月～11 月： 分析結果をもとに論文を執筆する。 12 月～3 月： 更なる調査（データ収集）の必要性から、教授およびラボメンバーの協力を得ながら質問紙の作成、インターネットプラットフォームの選定を経て、追加調査を実施する。
7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）	研修に関する研究成果は、2024 年度中に専門雑誌への 2 本の論文として投稿を予定している（①日本語版尺度開発、②先行研究の一部。）また 3 月に収集したデータについては、現在分析を進めており、分析が完了次第、論文として執筆することを予定している。 本研究は日本における研究実績の少ない PsyCap に関し、日本語での尺度開発を通じた PsyCap の概念、および尺度の普及に向けての基盤構築を図るものである。今後本尺度による測定が、日本人の PsyCap の現状や変化を把握する、また海外との比較への可能性を開くものとなることを期待する。
8. 所感	San Francisco State University の Matsumoto 教授をはじめ、心理学部の教職員の皆様、CERL のメンバー等、多くの方々からのご厚意を賜り、大変充実した研修期間を過ごすことができた。また教授には研修中のご退職となったにもかかわらず、研修終了まで多岐に渡り、お力添えを頂いた。今般の尺度開発の研究に際し、心理尺度開発および方法論に精通する教授より直接ご指導を賜ることができたことは、大変深い学びとなった。最後に、研修先で関わって下さった皆様に心より感謝申し上げるとともに、貴重な機会を下さった実践女子大学短期大学部の学長、および諸先生方にも深くお礼を申し上げたい。

※A4 1枚～2枚以内で作成してください。